【市長賞】言葉の力

中津市立東中津中学校 2年 今西 紗和

私は部活動を通して、言葉には人を励ます力と傷つける力の両方があることを学びました。私は吹奏楽部で活動しています。練習中は楽しいこともたくさんありますが、うまく吹けなかったり、思ったようにできなかったりして、みんなの気持ちがぶつかってしまうこともあります。

私も以前、友達とのやり取りの中で、言葉の伝え方が原因でけんかになってしまったことがありました。みんなで、コンクールに向けて練習をがんばっているときに、部活の雰囲気が悪くなってしまったことがありました。コンクールの目標についてみんなで話し合っているとき、部員の中で意見がわかれてしまい、言い合いのようになってしまいました。私は家に帰り、自分が言った言葉を思い返してみると、相手の気持ちをしっかり考えずに、自分が思ったことをそのまま言ってしまっていたことに気づきました。

その後、少し気まずい雰囲気になってしまい、私は、「このままでいいのかな」と何度も思いました。時間がたっても、なかなか自分から話しかける勇気がありませんでした。「何て話しかけたらいいんだろう」「話しかけてもむしされるかもしれない」と、考えれば考えるほど話しかける勇気がでませんでした。でも、「このままだと絶対にコンクールでいい演奏ができない。このまま何もしなかったらもっと距離ができてしまう」と思い、勇気をふりしぼって、自分から話しかけてみました。

最初は緊張したけれど、相手も私の話をしっかりきいてくれて、理解してくれて謝ってくれて、相手の気持ちもしっかり伝えてくれて、おたがいの気持ちをしっかり伝え合うことができました。そして最後にはまたふつうに話せるようになりました。そのとき私は、仲直りするには、どちらかが動き出すことも大切なのだと思いました。コンクール本番では、目標の金賞をとることはできなかったけれど、「ここまでがんばってきてよかった」と心から思うことができました。あの時仲直りできていなかったら、後悔がたくさん残るような本番になっていたと思います。

また、私はこの経験から、同じ内容でも言い方や伝え方によって、相手がうれしくなったり、逆に傷ついてしまうこともあることに気づくことができました。自分にとっては、何気ない一言でも、相手からすると、とても嫌な言葉になってしまうことがあります。でも、逆に、少し優しい言葉をかけるだけで、とても安心することもあります。相手は本当に悪気があって言ったわけではなくても、とても嫌な気持ちになってしまい、言葉の使い方に気をつけようと思えました。

部活動では、みんなで声をかけあいながら練習することがあります。やさしい言葉を言ってもらえると、もっとがんばろうという気持ちになります。言葉には人を支える力もあるのだと思いました。相手の気持ちを考えて行動することや、一人の人として大切にすることも人権につながるのではないでしょうか。

しかし、いつでも相手の気持ちを完璧に考えることはできないと思います。けんかした時など、つい感情的になってしまい、言葉をえらばずに話してしまうことがあります。もしそういうことがおきてしまったら、あとから自分の言ったことをふり返って、この言い方はよくなかったなど、しっかり反省して、それを次に生かすことが大切だと思いました。

私は、これからこの経験を生かし、もしだれかを傷つけてしまったときは、そのままにせずにあやまったり話し合ったりすることで、関係を戻していきたいと思います。そして、私も周りの人からもらった優しさを大切にしながら、今度は自分が誰かを支えられるような言葉をかけられる人になりたいです。